

3-②. 市民活動の場の支援(CANVAS谷町)

－ 2013年4月、ボラ協らしさにこだわりながら、新しく民設民営の拠点をオープン！

2013年3月末で、大阪NPOプラザ（大阪市福島区）の拠点運営に終止符を打ち、2013年4月にCANVAS谷町（大阪市中央区）を新たに開設。オープニングイベントには2日間で延べ263名が参加した。また、CANVAS谷町ではより良いスペースづくりを目指して利用団体と意見交換会を開催。同時に、「セルフヘルプグループを知る勉強会」などを開催した。CANVAS谷町では、フレックスデスク8団体、コーディネーションデスク2団体が活動している。CANVAS谷町の自主財源でもある貸し会議室の平均稼働率は、小会議室40%、大会議室29%、畳スペース12%であった。

1. CANVAS谷町開設に向けた、様々な支援

（1）拠点開設準備の寄付集め活動

2012年12月から3月まで実施した「拠点寄付キャンペーン」に賛同してくださった方のうち、4月以降の寄付を希望された個人・団体からもお受けさせていただき、総額1148万円ものご寄付をいただくことができた。

（2）引っ越し片づけ活動（4月）

4月1日、新拠点での活動がはじまる。オープニングイベントを開催する4月12日までに、部屋中に山積みとなった段ボールを片づけなければならず、毎日、多くのボランティアの協力を得て、引っ越し片づけを行った。



2つの事務所から山のような荷物をボランティアの力で移動

2. CANVAS谷町、いざオープン！

（1）「CANVAS谷町」で大事にしたい3つのコンセプトとは

2012年度の「全員まるごとワークショップ」等の議論をもとに、3つのコンセプトにまとめた。

- ①小さな芽吹きを育みます …ボランティア、市民活動に「ちょっぴり」関心が生まれはじめた市民の「小さな芽」を大事に育み、サポートする。
- ②「つながる場所」×「生まれる場所」 …情報交流エリアに集まる人や団体、情報を協会スタッフが、きめ細かくコーディネートする。
- ③しんどさを抱える人にも安心な場所を提供 …生きづらさを感じている人や弱い立場に置かれた人にとっても、静かで落ち着ける場所の提供をめざす。

（2）オープニングイベント2DAYの開催（4月）

支援の御礼とお披露目を兼ねたオープニングイベント2DAYS「25時間！まるごとキャンパス。」を開催した。

- ・開催日：2013年4月12日（金）～13日（土）
- ・参加人数：のべ263人（内訳は①式典・パーティー：109人、②夜更かしプログラム：53人、③シンポジウム：29人、④拠点ツアー：34人、⑤マップ作り：5人、⑥なにわ語り部の会のデモンストレーション：5人、⑦はじめてのボランティア説明会：13人、⑧ボラスタプログラム：15人）



オープニングイベントには、全国から関係者や仲間が駆けつける

3. CANVAS谷町を拠点として活動する団体

CANVAS谷町を拠点として活動する団体に、フレックスデスク、コーディネーションデスク、レターボックス、ロッカー小・中・大を、年度または半期で貸出している。

（1）フレックスデスク

事務所を持たず、週数回程度の事務所作業等や活動を進める「事務所機能」を求める団体にとっての利便性をもったデスクを提供。団体が緩やかに場をシェアしながら、一時的な事務所機能を置く中で、新拠点に集まる人、団体、支援者と出合ったり、共に資源や知恵を共有できる場を作っている。

■フレックスデスク利用団体一覧（8団体）

特活）大阪市計量協会、大阪手引きの会、特活）介護環境ネットワーク機構、関西音声サポート、創作サポートセンター、特活）地球コード研究会、福祉カウンセリング協会、東日本大震災県外避難者西日本連絡会（まるっと西日本）

（2）コーディネーションデスク

フレックスデスクよりも利用頻度が高く、活動・事業でコーディネーションや電話相談を行なう団体に対して、デスクを提供している。

■コーディネーションデスク利用団体一覧（2団体）

特活）キャンピズ、大阪セルフヘルプ支援センター

（3）レターボックス

対外的な連絡先（郵便受付）を持ちたい団体に対して、利用料1,000円で貸し出している。

■レターボックス利用団体一覧（24団体）

特活）いくの学園、ACoA Stories、ACODA ローゼズ、NPO パーソン to パーソン、大阪交通遺児を励ます会、特活）大阪市計量協会、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、おはなしグループ綿の花、特活）介護・環境ネットワーク、関西音声サポート、特活）キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、高齢者福祉スタッフ情報交換&交流会、SAIL.0（大阪帆船と国際交流）、創作サポートセンター、特活）地球コード研究会、なにわ語り部の会、東日本大震災県外避難者西日本連絡会（まるっと西日本）、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク、創作サポートセンター

（4）ロッカー

CANVAS谷町を活動の拠点とし、活動・事業で荷物の保管が必要な団体に対しロッカーを貸し出している。

■ロッカー利用団体一覧（22団体）

ACoAストーリーズ（大阪グループ）、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特活）大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、大阪手びきの会、大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会、特活）キャンピズ、特活）介護・環境ネットワーク機構、くつろぎステーションつばさ、手話サークル「つくし」、創作サポートセンター、特活）地球環境大学、特活）地球コード研究会、中卒・中退の子どもをもつ親のネットワーク、東日本大震災県外避難者西日本連絡会（まるっと西日本）、プチ大阪兄弟姉妹会、なにわ語り部の会、福祉カウンセリング協会

4. CANVAS谷町で実施された様々な動き

（1）市民活動スクエア「CANVAS谷町」利用団体との意見交換会の開催

①. CANVAS利用団体との意見交換会

■第1回意見交換会

- ・主な議題：会議室エリアやワークスペース、情報交流エリア、コラボエリアなどのあり方について
- ・開催日と参加者数：①2013年7月10日 11名（6団体）参加、②2013年7月13日14名（9団体）

■第2回意見交換会

- ・主な議題：会議室エリアやワークスペース、情報交流エリア、コラボエリアなどの利用方法や改善点など
- ・開催日：①2014年3月4日 9名（6団体）参加（第2回）②2014年3月8日 11名（7団体）

②コラボエリア利用団体との意見交換会

開催日：（第1回）2014年1月21日 参加者：8名（5団体）：（第2回）2014年1月23日
参加者：6名（3団体）

（2）「今、避難者支援はどうあるのか、意見交換会」

～被災者生活支援の基本的方針を見て、避難者支援団体ともに考える～

避難者の自助グループ「まるっと西日本」（フレックスデスク利用団体）を交え、支援団体の取り組みと課題、「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針（案）」へのコメント、参加者を交えたディスカッションを中心に意見交換会を行った。

開催日 2013年9月22日 参加者：13名

（3）セルフヘルプグループを知る勉強会

CANVAS谷町のコンセプトを具現化するために勉強会を実施した。

- ・第1回 開催日：2013年9月29日 参加者：13名 ゲスト：大阪セルフヘルプ支援センター
- ・第2回 開催日：2013年11月4日 参加者：14名 ゲスト：ACoA大阪グループ（Stories）
ACODAローゼス
- ・第3回 開催日：2013年12月1日 参加者：11名 ゲスト：くつろぎステーションつばさ、
プチ大阪兄弟姉妹会
- ・第4回 開催日：2014年1月23日 参加者：10名 ゲスト：中卒・中退の子どもをもつ親のネットワー
ク、大阪スタタリングプロジェクト
- ・第5回 開催日：2014年3月26日 参加者：8名 ゲスト：発達障害をもつ大人の会

（4）たにまちっくの活動

「CANVAS谷町」に全国から集まる市民活動情報を分かりやすく来館者に伝えることや、心地の良い空間を作り、様々な人の居場所にする、さまざまな団体、人の橋渡しをすることを目的として活動をしているチーム。

具体的には利用団体の顔が見えるように本日の会議室利用状況看板を作成したり、ちらしのポップを作成したりしている。市民活動スクエア「CANVAS谷町」利用団体・意見交換会などで意見をとり入れ、利用しやすい空間をつくっている。



上部写真：ロッカー利用団体の名札
左記写真：カフェコーナー利用看板、
右記写真：職員紹介

5. CANVAS谷町の全体的利用状況

人と人がつながったり、市民活動に関する情報を入手できることはCANVAS谷町の重要な機能のひとつである。情報交流スペースでは、市民活動に関するイベント、ニュースレター、ボランティア情報などを提供した。同時に、NPO支援の一環として印刷機や紙折り機などをワークステーションに設置しているが、印刷機・コピー機の利用は525件あった。

（1）貸し会議室の月別稼働率と利用主体別割合、利用者数

貸し会議室はNPO支援メニューの一つであるとともに、CANVAS谷町の大きな自主財源でもある。平均稼働率は、小会議室40.6%、大会議室29.5%、畳スペース12.0%であった。利用主体別に利用実績を見ると、パートナー登録団体が49.4%、大阪ボランティア協会が48.9%を占めた。他方、PRが遅れたため、一般利用は1.1%、会員利用が0.6%にとどまっている。今後はPRを実施し、一般・会員の利用も促したい。最後に、会議室利用者は延べ11,805人であった。

図3-6 貸し会議室の月別稼働率

